

# ほ ど 教育センター通信

## 火床の火の心を紡ぐ

第9号（通算92号）  
令和4年1月28日  
三条市小中一貫教育推進課  
教育センター 発行

### しただの郷学園



1月12日（水） 「英語」乗り入れ授業（森町小学校）

## 「科学教育センター」7月供用開始に向けて

教育センター指導主事 吉田 卓司

新しい年がスタートしました。今年は壬寅（みづえのとら）という年で「厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージ」だそうです。新型コロナウイルス感染症対応はまだまだ予断を許さない状況ですが、これまでどおり子どもたちのよりよい成長のために、学校と教育委員会とで連携し、工夫しながら教育活動を展開していければと考えております。

さて、本号でも紹介していますが、令和4年7月に、図書館、鍛冶ミュージアム、科学教育センターの機能を果たす図書館等複合施設「まちやま」が供用開始となります。科学教育センターは、次の3つの取組を中心として運営していきます。

- 1 理科を学習する児童生徒への理科学習
- 2 市民向けイベント
- 3 教職員向けの研修会等

特に児童生徒への理科学習については、新潟県内で同様に取り組んでいる市町村はありません。また、全国的に見ても数少ない試みとなります。現在、「ものづくりの町三条の未来を担ってほしい。」「いつかノーベル賞を受賞する子どもを。」という思いをもって準備を進めています。

「理科離れ」「理科嫌い」などの言葉が聞かれて久しいですが、観察や実験に取り組んでいる子どもの目はいつも輝いています。先生方には、科学教育センターを訪れて、観察や実験の知識を増やしていただきたいのはもちろんですが、科学教育センターで大型実験ショーを見たり、観察実験を行ったりする子どもの目の輝き、表情を見ていただければと考えています。

7月の供用開始に向けて、今後も精一杯準備を進めていきます。どうぞ御期待ください！

## 三条学園

「三条学園コミュニティ・スクールあいさつ標語」の活動を行っています。夏休みの学園課題として児童生徒があいさつ標語を考えました。1次審査で、各クラス代表1作品を選抜し、これを優秀賞としました。2次審査では、1次審査で選抜された作品に対し、第2回学園運営協議会で協議し、各学年の最優秀賞を決定しました。以下に最優秀賞の作品の一部を紹介します。

### 学園運営協議会 協議の様子



小学1年の部 裏館小学校 宇佐見 優月さん  
じぶんから あいさつできたよ 100 てんまんてん  
小学5年の部 上林小学校 遠藤 壮真さん  
あいさつで みんなの絆 ふかめよう  
中学3年の部 第三中学校 熊谷 珀飛さん  
みつげだす みんなの笑顔 あいさつで

最優秀賞に選ばれたあいさつ標語は、三条学園小中一貫教育だより「三条学園 news12月号」に掲載されました。今後は、日常的なあいさつへの意識をもつことをねらい、第三中学校美術部員がイラスト入りのポスターを作成し、校内に掲示する予定だそうです。温かなあいさつが交わされる地域が、学園の教職員・児童生徒・地域の皆さんと一緒につくられていくことが期待されます。

## 科学教育センター

三条信用金庫様からの寄附で「移動式プラネタリウム」を整備しました。

先日、栄体育館でテスト上映を行いました。「移動式プラネタリウム」は、来年度からの理科学習や市民向けイベント、要請研修等で活用していきます。天候に左右されずに、素敵な星空をお届けします。

科学教育センターではその他にも、「大型実験ショー」「科学に関するイベント」等、子どもの興味・関心や科学的思考力を高める様々な取組を準備しています。

令和4年7月24日（日）に図書館棟複合施設「まちやま」のオープニングセレモニーを実施します。御期待ください！！



### 【移動式プラネタリウム】

大きなエアドームなので、40人程度が一度に入ることができます。

実際に投影した画像です。かなりリアルな星空を再現できます。星座の線も示すことができるので、様々な年齢の人に分かりやすく説明できます。



## 三条市新春小・中学校書初展

毎年恒例の三条市小・中学校新春書初展は、昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため展示を中止しました。今年度こそ子どもたちの秀作を展示し、皆様に見ていただこうと準備を進めてまいりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が三条市内でも危惧される事態となり、やむなく昨年同様、栄庁舎での展示は中止とし、審査と表彰のみを行うこととなりました。

小学校442作品、中学校245作品の合計687作品が市立学校及び県立月ヶ岡特別支援学校より出品されました。新潟県書道教育研究会から中村暢子様、狩野芳明様、和田ゆきえ様3名の先生に審査していただきました。

1月20日（木）、栄庁舎3階ホールに力作が並びました。審査員の先生方は、作品一枚一枚を真剣な眼差しで見つめていらっしゃいました。審査後、「優劣つけがたい優れた作品が多かった」とお褒めの言葉をいただきました。

伝統あるこの書初展は、役員や作業協力の先生方の御尽力によって開催・運営ができています。今年度も、審査補助等様々な場面で御協力いただきました。心から御礼申し上げます。



## 三条学講座（教職員向け講座）紹介

### 第6回三条学講座「自然講座（秋の大崎山を訪ねて）」

10月8日（金）の午後、大崎山を中心に、自然講座を実施いたしました。

自然豊かな秋の大崎山を散策しながら、木の実や種、草花を見付けたり、それらを使った遊び方を教わったりしながら、秋の自然を味わい、有意義な研修講座となりました。

講師は、「NPO 法人にいがた里山研究会」の理事長の小林良範様にお願しました。当日は、曇り空ながらも、爽やかな秋の日に、グリーンスポーツセンター前に集合し、山頂公園まで、ゆっくりと歩きながら散策しました。山頂の碑の歴史についても研修しました。



参加した教職員からは、「身近な植物を自然科学、歴史を交えて学べ、楽しかったです。」「総合的な学習に生かせそうです。」「学校に戻って、講座の良さを知らせます。」といった感想が寄せられました。来年度も実施予定ですので、ぜひ参加ください。

大崎山山頂には、大きな碑が立っています。御存知ですか？碑には、「観測日食碑 明治20年9月 内務省地理局」と刻んであり、日本で3つの観測地点の中で、ここ1か所だけ観測に成功し、当時の記録には、3枚の「コロナ」の写真を撮ったと記録されています。その偉業を記念しての碑が建てられています。

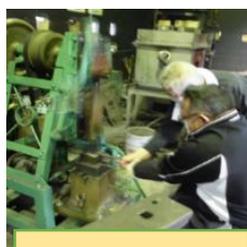


## 第7回三条学講座（包丁作り講座）

11月13日（土）9:00～16:00・14日（日）9:00～12:30、三条鍛冶道場で包丁づくり講座を実施しました。講座内容は、「ペーパーナイフ・切出し小刀・三徳包丁」の中から一つ選び、三条が誇る越後三条鍛冶集団（伝統工芸士）の皆様、三条鍛冶道場の指導員の皆様の手ほどきを受けながら、世界でたった一つの作品を作り上げました。

### 【三徳包丁作成の手順】

- ① ならし打ち（包丁の形の材料材を打つ）
- ② 整形（スプリングハンマーで形を整える）
- ③ 砥粉塗り（包丁に砥粉を塗り乾かす）
- ④ 焼き入れ（熱で熱し、一気に水につける）
- ⑤ 焼き戻し（冷めた包丁を火に入れる）
- ⑥ 刃卸し（切り刃部分の地金を斜めに削り落とす）
- ⑦ 刃研ぎ（荒砥石・中砥石・仕上げ砥石の順で研ぐ）
- ⑧ 柄入れ
- ⑨ 完成



①ならし打ち



④焼き入れ



⑥刃卸し



⑨「世界に一つ」自分で作った三徳包丁

※参加費  
（材料費）  
1,500円

三条市に勤務する教職員が、三条の「金物づくり」を知り、直接体験できるまたとない機会となったことと思います。会場の三条鍛冶道場では、様々な体験（ペーパーナイフづくり、包丁研ぎ等）を行っていますので、この講座に限らず、週末等、参加してみたいはいかがでしょうか。なお、次年度も「包丁づくり講座」を開催予定ですので、ぜひお申し込みください。

## 第5回三条学講座（金物の話講座）

12月10日（金）14:00～16:30、三条鍛冶道場で金物の話講座を実施しました。当初9月に実施の予定でしたが、感染症拡大防止対策のため延期して実施しました。

日野浦刃物工房の伝統工芸士、日野浦司様を講師に、三条の金物の歴史、これからの三条の金物の未来について講話をいただきました。

日野浦様からは、三条の金物の素晴らしさを御紹介いただきました。手作業を科学的に研究・検証し、機械作業にない良さがあることや海外での見本市等で大きな評判になっていることなど興味深いお話でした。

講話後、実際に三徳包丁を作る際の「鍛接」（鉄と鋼を合わせる）作業を目の前で披露いただきました。全国刃物七大産地の中で、ただ一つ、手作業で一貫して作る技術をもっている三条「金物の町」の技術の高さを知ることができました。



実演：三徳包丁の「鍛接」作業